（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	すみれ沼津教室

公表日　令和７年　3月　３１日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	・落ち着いた活動が増えてきているので、スペースは適切であると思う。 ・プレイルーム・宿題の部屋・面談室・静養室・等スペースは確保できている。	・プレイルームと個室の使い方、ルールを説明していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	1	4	・基本人員は確保されている。 ・プレイルームは職員２人、個室付近に職員１名配置している。	・職員の配置数に関しては問題ないが、もっと増やし、支援を手厚くしていきたい。 ・男性職員を確保していきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・施設は２階なのでスロープはないけど手すりをつけたり、ガードをつけたりして安全面に気をつけている。	・２階なので車椅子は難しいが、室内に段差はない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・１人で過ごせる空間を多くしている事。 ・毎日掃除、消毒を行っている。	・移転前の施設より広くなっている。<静>と<動>のスペースを分けたので、動きたい子にとっては狭く感じさせてしまっているかもしれません。狭く感じさせないような内容を考えていきたい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・面談室（お話ルーム）や宿題ルーム、お絵かきルーム・ゆったりルーム（静養室）等、静かに過ごしたり、１人になって落ち着ける４つの小部屋が使用できる。	・個室を使用する際のルールを子供たちに伝え、こういう時に使用できるという安心感、クールダウンできる部屋があるという事を伝えるようにする。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		・申し送りなどで情報共有に努めている。 ・毎日ミーティングを行っている。	・出勤していない職員に情報が伝わらないという事がないようにするため、ミーティングの記録を必ず見る習慣がつくように職員に促す。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・１年に１回、保護者に評価表をお願いしている。	・保護者と共に作り上げていきたいので、貴重なご意見を参考に改善すべき点は改善していきたい。これはすみれがある限り持続すべきこと。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・申し送り等で職員全員が意見など言える場を設け、またわからないことや疑問に思う事をみんなで考えていくようにしている。	・ミーティングなどで子の成長を共有し、支援法を一緒に考えている。これは持続して行っていきたい課題。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・研修など紹介し、参加しやすい環境が出来ている。 ・オンライン研修を多く行っている。 ・定期的に外部研修を受けている。	・オンライン研修を受けることが多い。 職員１人２人にあった研修をピックアップして進めることを多くしていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		・令和７年３月にインスタとすみれのHPに公表した。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・ミーティングの時にみんなで対象児に対しての話し合いをしている。 ・半年に１度、また見直しが必要な時は職員全員で共通理解が出来る様会議を行っている。	・支援の仕方の見直しにもなるため、積極的に職員１人１人の意見を聞くようにしていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	5		・全職員が必ず読み、確認できるようにしているまた、見やすい所に置いている。	・計画に沿った支援を行えるよう話し合いを密に行っている。支援法がわからない時は、何がわからないか聞き、助言など行うようにしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			・新しいバージョンを整えている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	・保護者と情報共有できる場を多くとるようにしている。（送迎時・面談・LINEなど）	・５領域の項目に沿った支援を行うよう、職員にも共有している。 関係機関との情報共有の機会も多くしようと整備している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・チーム（製作・運動・ゲーム）に分かれ、企画を提案し決めている。 ・活動の指導書（ねらいや役割が記入）を書き、いつでもその活動の理解ができるようにしている。	・活動のねらいなどを明確にし、自分が何をすべきで、子ども達の何を見ていくかがもっとわかわかるようにしていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・週ごとに内容がかわるようにしている。 (一週目：月→製作。火→運動。 ２週目：月→運動。火→製作　など）	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		・１人１人に合わせて個別と集団を行っている。	・集団になかなか入れない子に対してのアプローチの仕方を常に考えるようにする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・ミーティングは毎日午前中に行っている。長期休みの時は送迎が終わった時に行っている。 ・日案（指導書）を作成し、全員が見られるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	5		・送迎後、もしくは翌日の朝に話し合い、情報を共有している。 ・シフト休みの職員にも伝わるよう記録を付けている。	・振り返りを行い、職員がみんな同じ考えで支援できるように、もっと明確化して話し合うようにしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・業務日誌に記録をとっている。 ・個々の成長した所、ここを支援強化していきたい等紙にも記録しいつでも見れるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・アセスメント、モニタリングはいつでも行えるようにしている。 ・ミーティングでの話し合いの中で見直しが必要ではないかと判断した場合、モニタリングを行うようにしている。	・職員全員がアセスメントなどできるようにしていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5		・これから地域活動を展開していく。	・自立支援や日常生活が円滑になるための活動や創作活動は意識して行っているが、地域に関してはこれから関わっていきたいので、計画を立てている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		・自己選択が出来る様、子どもの様子を見て活動の参加の仕方を工夫している。	・集団が苦手、初めての事は想像できないので不安だから参加できない、失敗が怖い等の理由の子どもたちに対しての支援（事前説明等）を強化していきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		・主に児発管が参加している。	・児発管と共に、療育を中心に行っている職員と２名で参加できるように調節していきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	・連携したことに関しては寄り添いながら支援内容を考えている。わからない時は保護者・相談支援事業所と連絡をとり、寄り添えるようにしている。	・関係機関での会議を行い、特に家庭・学校・すみれが連携した支援を行えるようにしていきたい。（学校とのケース会議を多くしたい）
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		・送迎時にお互いに情報共有するようにしている。	・学校により情報共有に差があるので、呼びかけは続けていきたい。特に普通級との情報共有は難しいと感じている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2	・高校３年生の男の子が初めてすみれから卒業した。この先がまだ曖昧だったが、相談支援事業所や学校と情報共有していた。	・情報共有を積極的にしていくべきだったかと反省。移行が分かった時点でより多く保護者や学校など関係機関と話し合うようにしていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	4	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		・今現在交流をもてていないので、今後近くの放デイ等に声をかけて交流を行っていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		・市の自立支援協議会に参加をしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・送迎時や連絡帳・LINE等で状況を伝えている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		・「もっとしてほしい行動」「あまりしてほしくない行動」「危ない行動」等、アプローチ法を保護者に伝えられるようにしていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	・運営規定、利用者負担等については契約時にお伝えしている。 ・支援プログラムはインスタ、HPに記した。	・支援プログラムはインスタやHPで見れることを伝えるようにする。 ・運営規定はすみれ施設内で閲覧できることを伝える
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			・面接時、また子ども達には普段の療育中に聞いているが、保護者ともっと多く話す機会を作っていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・送迎時や電話やLINE、また直接すみれに来てもらい話をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	2		・今後行っていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・必ず、管理者に報告をし対応を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		・毎月<すみれ便り（お便り）>を配布している。不定期ではあるがSNSで発信している。 （インスタ・HP）	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・鍵のある書庫に保管するようにしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・送迎時やお便りや連絡帳・LINEなどで情報伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	・<いかのおすし>など伝え、毎月１回は訓練を行うようにしている。	・マニュアルに関しては、保護者が来た時にいつでも見られるように児童用玄関のところに置いてあることを周知するようにする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・毎月訓練を行っている。年に１回大きな訓練を行うようにしている。消防署に水消火器を借り門池に放水したりしている。	・消防署に見学等に積極的に行きたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	4	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		・子どもたちの下駄箱の上に身体拘束についてのすみれの体制が記載されたものを置いてある。	・身体拘束の対象者がいないので説明をしてこなかった。必要時に説明はしていきたい。

5